

環境経営レポート

(対象期間 2025年9月～2026年3月)



作成日 2026年6月25日

株式会社 アプリス

ご挨拶

株式会社アプリスは1962年創業以来、食品パッケージにおけるリーディングカンパニーとして、独自の多層技術を活かした高機能製品を開発・提供し、着実に地歩を固めてまいりました。また、"食"の明日を切り拓くことを自らの使命と考え、その実現の為、日々弛まぬ努力を続けてまいりました。

企業活動は環境にも与える影響が大きい事を受け止め、次頁の環境方針を基に環境活動を展開し、地球環境に優しい企業として環境への配慮も企業活動の大きな役割として捉え新たな一歩を歩み出しました。

以下、「環境経営レポート」としての取り組みをまとめましたので、私たちの取り組みをご高覧の上、ご指導、ご指摘をいただき次の環境活動に生かして行きたいと存じます。

株式会社 アプリス
代表取締役社長
秋元 裕滋

目次

ご挨拶	… P1
1. 環境経営方針	… P2
2. 事業活動の概要	… P3
3. エコアクション2.1推進組織図	… P5
4. 環境目標とその実績	… P8
5. 環境活動計画の取組みと評価	… P11
6. 代表者による全体評価と見直しの結果	… P14
7. 環境関連法規制の遵守	
8. 環境活動の例	… P15

1. 環境経営方針

環境経営方針

< 基本理念 >

私たちは、環境問題への取り組みが、人類共通の課題のひとつと認識し、本業である容器製造業を通じて、人間と自然が共生できる環境の創造と持続的発展が可能な社会造りに貢献いたします。

< 基本方針 >

環境保全活動を推進するにあたり、以下に主な活動項目を掲げて取り組みます。

1. 当社の本業である、食品容器の成形・加飾から物流工程までの各領域において、技術的・経済的な事情を考慮の上、環境負荷の低減に努めます。
 - ①二酸化炭素排出量削減のため、使用電力削減・使用資材の削減・廃棄物の単純焼却の削減に努めます。
 - ②事業活動で発生する廃棄物は、発生を抑制するとともに再使用、再利用の向上に努めます。
 - ③水資源の有効利用の為、節水に努めます。
2. 環境活動の継続的改善を推進するにあたり、環境目標・環境活動計画を策定し取り組みます。策定して目標・活動計画は定期的にあるいは必要に応じて見直し、継続的な改善に努めます。
3. 環境関連法・規制及びその他要求事項を遵守し、環境負荷の低減、環境汚染の防止に努めます。
4. 環境方針は、全ての従業員に周知するとともに、環境教育を行い社員の環境に関する意識の向上を図ります。
5. 環境管理に関する情報は、社内外に公表し、地域社会とのコミュニケーションを図ります。

改定日 2020年 8月 21日

株式会社 アプリス

代表取締役社長 秋元 裕滋

2. 事業活動の概要

1. 事業者及び代表者名

株式会社 アプリス
代表取締役社長 秋元 裕滋

2. 所在地

〒180-0006 東京都武蔵野市中町 1 - 1 5 - 5
三鷹Renolikeビル 6 階

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者 : 代表取締役社長 秋元 裕滋
副責任者 : 関東工場長
副責任者 : 九州工場長

関東工場 環境管理責任者 : 関東工場 関東総務課課長
関東工場 担当 : E A 2 1 事務局 保全課
TEL : 027-269-3831
FAX : 027-269-3834

九州工場・九州営業部 環境管理責任者 : 技術部 担当課長
九州工場 担当 : E A 2 1 事務局 総務課
TEL : 0948-23-0238
FAX : 0948-29-8547

本社・関西営業部 環境管理責任者 : 東京総務課課長
本社・関西営業部 担当 : E A 2 1 事務局 総務課
TEL : 0422-60-3110
FAX : 0422-60-3115

4. 対象範囲

関東工場
群馬県前橋市五代町680-2 芳賀東部工業団地内
九州工場・九州営業部
福岡県飯塚市大字幸袋720-2
本社(営業本部・管理本部)
東京都武蔵野市中町1-15-5 三鷹Renolikeビル 6 階
関西営業部
大阪府大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル 4 階

5. レポートの対象期間

2025年9月度～2026年3月度の活動

6. 事業の内容

熱可塑性樹脂の真空・圧空成形品の製造販売
インジェクション製品の製造販売

7. 事業規模

関東工場

活動規模	単位	2024年度 (9～8月度)	2025年度 (9～3月度)
主要製品生産量	百万個	3945	2390
従業員数	人	623	629
延べ床面積	m ²	49,863	49,863

九州工場

活動規模	単位	2024年度 (9～8月度)	2025年度 (9～3月度)
主要製品生産量	百万個	1,264	697
従業員数	人	191	182
延べ床面積	m ²	14,310	14,310

本社・関西営業部

活動規模	単位	2024年度 (9～8月度)	2025年度 (9～3月度)
主要製品生産量	百万個		
従業員数	人	59	60
延べ床面積	m ²	622	622

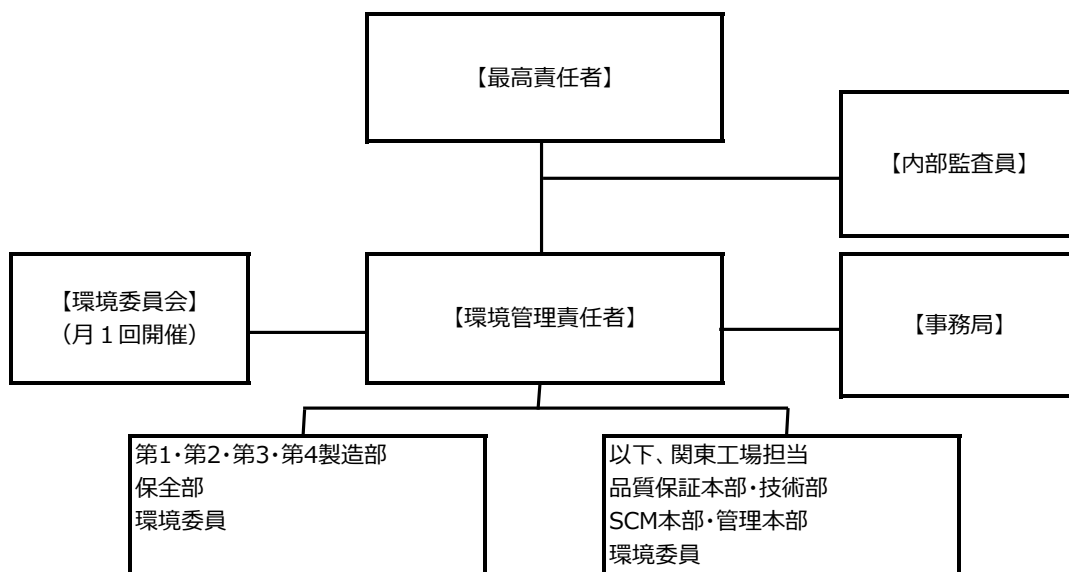
8. 全社の主な環境負荷

	2023年度	2024年度	2025年度
二酸化炭素排出量(t-CO ₂)	28,333.4	28,479.2	15,896.3
廃棄物排出量(t)	579.7	587.7	360.5
水資源投入量(m ³)	61,367	62,379	33,540

3. エコアクション21推進組織図（関東工場）

（2014年10月7日 作成）

（2024年10月16日 変更）

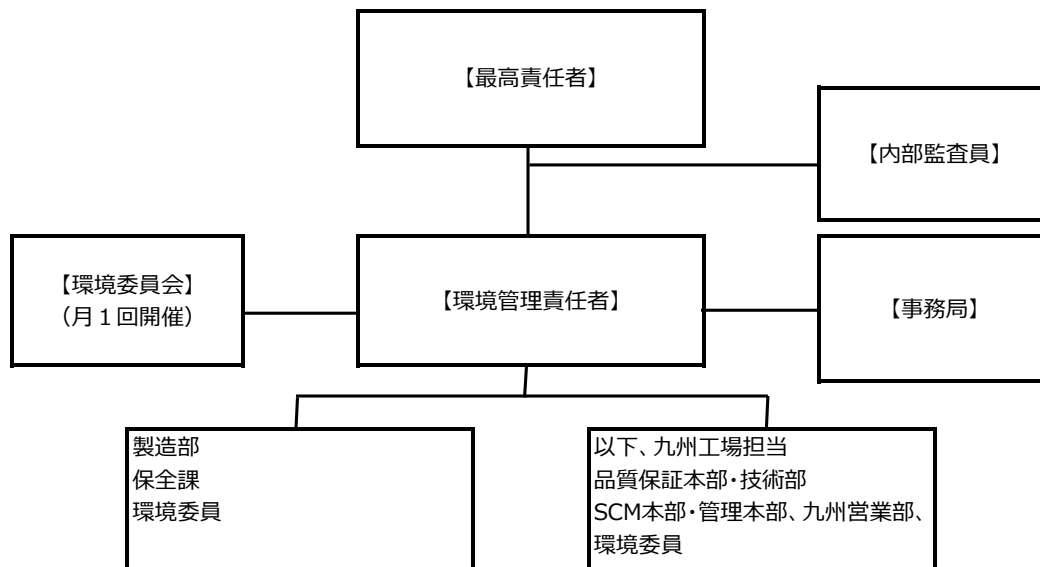


職名	役割
最高責任者	①環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。 ②エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器・設備・技術・技能を含む）を準備する。 ③エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し、環境目標をはじめシステム全体の見直しを行い、必要に応じ改訂を指示する。
環境管理責任者	①エコアクション21に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために環境委員会を運営する。 ②エコアクション21の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。
事務局	事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所管する。
内部監査員	事業年度終了後、速やかに監査を実施し、最高責任者及び環境管理責任者に結果を報告する。
環境委員会 (安全衛生会議・省エネ進捗会議と兼ねて実施する)	最高責任者・環境管理責任者・事務局・部門長で構成し、月1回環境管理責任者が召集する。環境目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理について協議する。環境管理責任者が必要と認めた者は出席することができる。
全従業員	①環境経営方針の理解と環境への取組みの重要性を自覚する。 ②決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する。

3. エコアクション21推進組織図（九州工場）

（2017年8月21日 作成）

（2025年8月16日 変更）

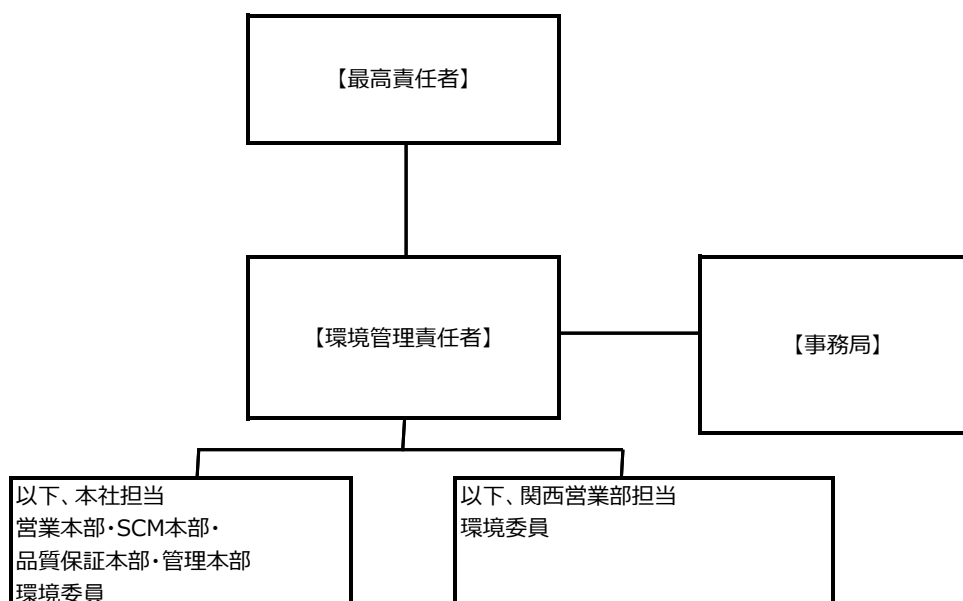


職名	役割
最高責任者	①環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。 ②エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器・設備・技術・技能を含む）を準備する。 ③エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し、環境目標をはじめシステム全体の見直しを行い、必要に応じ改訂を指示する。
環境管理責任者	①エコアクション21に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために環境委員会を運営する。 ②エコアクション21の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。
事務局	①事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所管する。
内部監査員	事業年度終了後、速やかに監査を実施し、最高責任者及び環境管理責任者に結果を報告する。
環境委員会 (安全衛生委員会と兼ねて実施する)	最高責任者・環境管理責任者・事務局・部門長で構成し、月1回環境管理責任者が召集する。環境目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理について協議する。環境管理責任者が必要と認めた者は出席することができる。
全従業員	①環境経営方針の理解と環境への取組みの重要性を自覚する。 ②決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する。

3. エコアクション21推進組織図（東京本社・関西営業部）

（2019年12月20日 作成）

（2026年 1月27日 変更）



職名	役割
最高責任者	①環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。 ②エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器・設備・技術・技能を含む）を準備する。 ③エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し、環境方針・環境目標をはじめシステム全体の見直しを行い、必要に応じ改訂を指示する。
環境管理責任者	①エコアクション21に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために環境委員会を運営する。 ②エコアクション21の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。
事務局	事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所管する。

4. 環境目標とその実績（関東工場）

関東工場に於ける2024年度(2024/8/21～2025/3/20)の環境負荷実績を把握し、
2025年度の目標を下記の通り定め活動を開始しました。

1. 主要な環境目標と環境負荷・実績

環境目標	基準年	今年度		中長期目標		環境活動計画 実施事項
	2024年度	2025年度		2026年度	2027年度	
	実績	目標	実績	目標	目標	
①生産量100万個当 たりの二酸化炭素排出 量の削減(t/百万個)	5.60	2024年度 実績に対して 0.5%減	○ 5.36	2024年度 実績に対して 1.0%減	2024年度 実績に対して 1.5%減	①空調温度適正化・表示 ②照明・PC電源不要時のOFFの推進 ③エアコン清掃の実施 ④電力及びエアー使用量の見える化の推進 ⑤印刷機UV装置更新 ⑥成形クラッシャーINV化
②生産量100万個当 たりの廃棄物排出量の 削減 (t/百万個)	0.110	2024年度 実績に対して 0.5%減	× 0.120	2024年度 実績に対して 1.0%減	2024年度 実績に対して 1.5%減	①分別ルールの徹底 ②廃棄物置場の整備 ③廃棄物の削減・資源化 ④廃棄物排出量の集計 ⑤リサイクル設備の増設
③生産量100万個当 たりの水資源投入量の 削減(m ³ /百万個)	11.9	2024年度 実績に対して 0.5%減	○ 11.1	2024年度 実績に対して 0.5%減	2024年度 実績に対して 1.0%減	①水道水使用量の見える化の推進 ②節水表示(手洗い場・トイレ) ③クーリングタワーの薬剤管理 ④成形温調器節水対策
④本業に関する目標	—	①標準材料ロ ス率以内 ②前年実績よ り向上させる	①材料ロス × ②ファンクシ ョン率 ×	①標準材料ロ ス率以内 ②前年実績よ り向上させる	①標準材料ロ ス率以内 ②前年実績よ り向上させる	①材料ロスの削減 ②ファンクション率の向上 ③目標達成・進捗状況の確認 ④廃カップ再資源化の推進

※購入電力の排出係数は、0.455 kg-CO₂/kwhを使用しています

(R2.1.7環境省・経済産業省公表 東京電力エナジーパートナー 調整後排出係数)

※PRTR法に該当する化学物質の使用はありません

4. 環境目標とその実績（九州工場）

九州工場に於ける2024年度(2024/8/21～2025/3/20)の環境負荷実績を把握し、
2025年度の目標を下記の通り定め活動を開始しました。

1. 主要な環境目標と環境負荷・実績

環境目標	基準値	今年度目標・実績		環境活動計画 実施事項
	2024年度	2025年度		
	実績	目標	実績	
①生産量１００万個当たりの二酸化炭素排出量の削減(t/百万個)	4.83	2024年度実績に対して0.5%削減	× 4.96	①空調温度適正化、フィルター定期清掃 ②DM電力抑制適正化（エアコン電力抑制） ③成形・シート工場大型空調機へのBe One導入（空調制御変更） ④粉碎機駆動モータインバータ化（F2） ⑤第2シート工場空調機シャット設置（効率アップ） ⑥捕虫器ランプのLED化
②生産量１００万個当たりの廃棄物排出量の削減(kg/百万個)	123	2024年度実績に対して0.5%削減	○ 99	①分別ルールの徹底 ②廃棄物排出量の集計 ③廃棄物の資源化（無償・有償引取） ポリ袋の有償処理⇒無償引取
③生産量１００万個当たりの水資源投入量の削減(m³/百万個)	10.4	2024年度実績に対して0.5%削減	× 11.1	①水道メータの日々確認(漏水早期発見) ②クーリングタワー排水の見える化 ③クーリングタワーの薬剤管理 ④クーリングタワー各部調整、再生No.2押出し機排水量、オーバーフロー配管調整
④本業に関する目標	—	①材料ロス：標準ロス率以下 ②ファンクション率：前年対比で向上を目指す	①材料ロス：成・印・シ（達成） ②ファンクション率：成・印・シ（達成）	①材料ロスの削減 ②ファンクション率の向上 ③目標達成・進捗状況の確認

※ 購入電力の二酸化炭素 調整後排出係数は、0.417kg-CO2/kWhを使用しています
(2023年度・九州電力)

※PRTR法に該当する化学物質の使用はありません

※決算日変更により集計期間を9月度～3月度とした

4. 環境目標とその実績（東京本社・関西営業部）

1. 主要な環境目標と環境負荷・実績

環境目標	2023年度	2025年度		2026年度	2027年度	環境活動計画 実施事項
	実績	目標	実績	目標	目標	
①年間あたり二酸化炭素排出量の削減(t)	108.8	2023年比で 2%削減 106.6	× 114.4	2023年比で 3%削減 105.5	2023年比で 4%削減 104.4	①空調温度適正化・表示 ②照明・PC電源不要時のOFFの推進 ③エアコン清掃の実施 ④電力量の集計・分析 ⑤ガソリン等燃料の集計
②年間あたり産業廃棄物排出量の削減(kg)	6,053	2023年比で 2%削減 5,932	○ 5,467	2023年比で 3%削減 5,871	2023年比で 4%削減 5,811	①分別ルールの徹底 ②廃棄物置場の整備 ③廃棄物の削減・資源化 ④廃棄物排出量の集計
③年間あたり水使用量の削減(m ³)	452	年間使用量 450m ³ 未満	× 460	年間使用量 450m ³ 未満	年間使用量 450m ³ 未満	①毎月の使用量の確認 ②節水啓蒙活動
④グリーン購入の推進	-	購入品リストによる グリーン購入の 推進	-	購入品リストによる グリーン購入の 推進	購入品リストによる グリーン購入の 推進	①購入品の調査 ②グリーン購入品の選定 ③グリーン購入品の導入
⑤本業に関する目標	-	業務効率化とその 支援 新素材の検討	-	業務効率化とその 支援 新素材の検討	業務効率化とその 支援 新素材の検討	①業務効率化とその支援 ②目標達成状況・進捗状況の確認

※ 購入電力の排出係数は、基準年に合わせ以下の値を使用しています

本社：0.455kg-CO₂（R2年用・東京電力EP調整後排出係数）

関西：0.334kg-CO₂（R2年用・関西電力調整後排出係数）

5. 環境活動計画の取組みと評価（関東工場）

* 2025年度(2025年9月～2026年3月)の活動の取組みと評価をしております。

活動計画・達成状況	環境活動計画の取組み結果の評価
1. 二酸化炭素排出量の削減 『目標』 2024年度に対して0.5%減 目標の達成状況：4.6%減→○	・空調温度適正化,不要時OFF,エアコン清掃は定着 ・電力量,エアー流量のデータを活用した省エネ改善を推進中 ・第三工場,第四工場印刷ラインのUV装置更新 ・各工場成形クラッシャーモーターインバータ化 ・各種省エネ改善及び安定稼働により目標を達成
	次年度への取組内容
	・本業部分の稼働効率の向上や待機電力の更なる削減 ・印刷ラインUV装置改善の水平展開 ・成形ヒーター排熱による室内温度低下 ・工場内エアー漏れ修理
2. 廃棄物排出量の削減 『目標』 2024年度に対して0.5%減 目標の達成状況：9.1%増→×	・廃棄物の分別・廃棄方法精査により資源化の推進中 ・成形材材料ロスの削減改善→継続実施 ・会議資料のペーパーレス化→継続実施 ・使用済バッテリーのリサイクル化→継続実施 ・第一工場のリサイクル設備本格稼働に向けた調整中品増や、第三工場の設備不良による材料ロス増等により目標未達
	次年度への取組内容
	・生産稼働の安定化を推進 ・各工場のリサイクル設備安定稼働の継続 ・第一工場リサイクル設備増設
3. 水資源投入量の削減 『目標』 2024年度に対して0.5%減 目標の達成状況：6.7%減→○	・水道使用量監視メーターのデータを活用した節水対策を推進中 ・節水表示,クーリングタワー薬剤管理→継続実施 ・クーリングタワー密閉式導入によりフィルタ詰まり軽減 ・第二,第五成形温調冷却水の循環化による節水改善等により目標達成
	次年度への取組内容
	・引き続き生産効率アップと節水活動を進める ・工場別水道水使用量の見える化の推進 ・成形用温調器冷却水節水対策の水平展開
4. 本業に関する目標 『目標』 材料ロスの削減とファンクション率の向上 目標の達成状況：×	・物量減により、加工が大幅に減少 →装置安定稼働による生産効率を上げられず目標未達 ・リサイクル設備増設により、リターン化が進んだことで回収は増加しロス削減
	次年度への取組内容
	・生産設備の安定稼働で生産効率を上げるにより、材料ロスの削減、及びファンクション率の向上を図る

5. 環境活動計画の取組みと評価（九州工場）

* 2025年度(2025年9月～2026年3月)の活動の取組みと評価をしております。

活動計画・達成状況	環境活動計画の取組み結果の評価
1. 二酸化炭素排出量の削減 『目標』 2024年度に対し、0.5%削減 目標達成状況：2.6%増加 ×	・各工場・部署にてエアコン温度の適正化 ・成形・シート工場大型空調機へのBe One導入（空調制御変更） ・粉碎機駆動モータインバータ化（F2） ・各工場捕虫器ランプのLED化 基準年対比で生産量が△12%減少。2025年度期初より生産量低下により、年間通して生産効率ダウン。
	次年度への取組内容
	・DM電力抑制装置活用（継続） ・大型空調機制御変更Be One運用ソフト導入（データ見える化、空調制御） ・P1外面検査機制御盤FAクーラー更新
2. 廃棄物排出量の削減 『目標』 2024年度に対し、0.5%削減 目標達成状況：19.2%削減 ○	・ビニール（ポリ袋）の有償処理⇒無償引取 ・廃プラスチックパレット有償引取（再資源化） 継続実施
	次年度への取組内容
	・生産安定稼働による材料ロス率向上 ・廃棄物分別化による資源化推進
3. 水資源投入量の削減 『目標』 2024年度に対し、0.5%削減 目標達成状況：7.4%増加 ×	・水道メーターチェックによる漏水の早期発見 ・クーリングタワー補給水、排水日常点検
	次年度への取組内容
	・遠隔水道メーター導入による漏水の早期発見 ・水道本管劣化更新 ・クーリングタワー補給水、排水日常点検（継続）
4. 本業に関する目標 『目標』 材料ロスの削減とファンクション率の向上 目標の達成状況：○	・材料ロス率：全部署標準ロス率以下達成 ・ファンクション率：前年対としては向上 別途設定している各部署年度目標については、各部署ファンクション率が若干の未達。依存トラブル改善活動は継続して行っているが、稼働減に伴う不効率生産が続いていた状況
	次年度への取組内容
	・依存性課題改善並びに機械停止～再稼働時の効率化 ・人材育成活性化（監督者候補教育）

5. 環境活動計画の取組みと評価（東京本社・関西営業部）

* 2025年度(2025年9月～2026年3月)の活動の取組みと評価をしております。

* 数値に関しては2025年4月～2026年3月の1年間を集計しています。

活動計画・達成状況	環境活動計画の取組み結果の評価
1. 二酸化炭素排出量の削減 『目標』 2023年度に対し、2%削減 目標の達成状況：5.1%増加 ×	・エアコン温度の適正化・表示 ・電力量の月次グラフ化 エアコンのこまめなON・OFFといった節電活動を実施。前年同様の傾向となったものの夏期の電力使用量が増加したため前年超過となった。 次年次への取組内容 ・エアコン設定温度管理 ・換気・空調の効率化
2. 廃棄物排出量の削減 『目標』 2023年度に対し、2%削減 目標の達成状況：9.7%削減 ○	・廃棄物置場の分別ルール徹底 ・廃棄物排出量の集計、処理費用の見える化 定期的な整理・整頓活動の他、排出状況を月次で視覚化することで日常的な意識付けを行った。 次年次への取組内容 ・廃棄物削減についての啓蒙活動 ・サンプル管理の効率化
3. 水使用量の削減 『目標』 年間使用量450m ³ 未満 目標の達成状況：460m³ ×	・月次使用料の確認・グラフ化 ・節水啓蒙活動 節水については引き続き注意喚起程度の活動。月次での波はないものの、前年比でも超過する結果となった。 次年次への取組内容 ・節水啓蒙活動
4. グリーン購入の推進	・購入品の調査/グリーン購入品の導入 ・仕入れシステムを複数用意することで複数業者で比較できる環境を用意。グリーン購入は都度検討。 次年次への取組内容 ・引き続き購入品の選定・導入
5. 本業に関する目標 『目標』 業務効率化と支援 目標の達成状況：○	・Web会議・打合せの定着による効率化を継続して実施。 ・営業面でも引き続き環境負荷の少ない製品を拡大。 次年次への取組内容 ・業務効率化と省エネ策の拡充を図る

6. 代表者による全体評価と見直しの結果

基本方針の取り組み結果および全体評価については以下の通りです。

【二酸化炭素排出量】

本年度は、生産調整による設備稼働率の低下や待機電力の増加など、生産効率の面で厳しい環境となりました。そのような状況の中でも、関東工場では積極的な設備改善により大きな成果を上げることができました。今後は、設備改善に加え、生産変動時においても効率的な設備運用を図ることで、さらなるCO₂排出量の削減を目指します。

【廃棄物排出量】

廃棄物排出量については、関東工場では生産ロスや設備調整の影響により目標未達となりましたが、リサイクル設備の稼働増など今後に繋がる成果も確認できました。また、九州工場では再資源化の継続により目標を達成するなど、それぞれ改善に向けた取組が進みました。次年度は、廃棄物の発生抑制を最優先とし、リサイクル設備の活用拡大やロス低減活動を全社で推進していきます。

【水資源投入量】

水資源投入量については、節水改善や漏水防止活動により目標を達成した拠点があった一方、設備トラブル等の影響により目標未達となった拠点もありました。日常点検による異常の早期発見などの成果も得られており、今後は節水改善の水平展開に加え、設備の予防・予知保全を強化し、水資源の有効利用に努めてまいります。

次年度も本業を通して更に働きやすい安全安心なもののづくり、環境づくりに向けた全従業員による活動をさらに推進し、環境負荷低減に寄与できるよう邁進してまいります。

環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画、実施体制について変更はせず、今後も継続してまいります。

7. 環境関連法規制の遵守

1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	対象	届出報告義務許可・記録等	遵守状況
騒音規制法	コンプレッサ等	設置届・環境計量証明	○
振動規制法	コンプレッサ等	設置届・環境計量証明	○
フロン排出抑制法	第一種特定製品	各種点検表、チェックシート等	○
工場立地法	緑地面積等	建築確認申請書等	○
消防法	消防用設備等	防火管理者の選任・消防点検等	○
群馬県地球温暖化防止条例	関東工場	排出削減計画・報告書等	○
群馬県の生活環境を保全する条例	コンプレッサ等	設置届	○
福岡県公害防止等生活環境の保全に関する条例	クーリングタワー	設置届	○
プラスチック資源循環法	関東・九州工場	排出抑制と再資源化	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物	マニフェスト・業者との契約書等	○
エネルギーの使用の合理化に関する法律	関東・九州工場	定期報告・中長期計画書	○

2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規遵守の確認をし、環境関連法規への違反はありません。

尚、関係当局から違反等の指摘は過去5年間ありません。

環境活動の例

■ 粉砕機、ペレタイザーを増設、廃プラスチックのリサイクル促進（廃棄物の削減・資源化）

端材のリペレット



不良カップの粉砕



■ 太陽光発電設備の増設

関東工場 設備増設（450kw→800kw）



九州工場（955kw）



関東工場増設（第四工場 200kw）



関東工場増設（第五工場 150kw）



- 構内、駐車場の巡回清掃活動（安全衛生環境会議で月例報告）
- 使用電力量の月別計測と分析
- 新入社員教育（4月）
- 「e c o検定（環境社会検定試験）」受検支援・・・累計合格者 108名（2026年3月現在）
※ e c o検定合格者数ランキング・・・従業員数300名以上の企業で 20位
- エコアクション21認証取得（2016年～）
- 「株式会社アールプラスジャパン」への資本参加（2020年～）
- 「CLOMA」会員（2021年～）
- 環境配慮容器の開発
 - ・植物由来のバイオマスプラスチック使用
 - ・バイオマスマーク取得
 - ・プラスチックと紙器の複合素材
 - ・バイオマスインキの使用 など
- 紙素材容器の製造